

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズすてっぴ あいのうら			
○保護者評価実施期間	令和 6年 9月 20日	～	令和 6年 10月 21日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和 6年 9月 20日	～	令和 6年 10月 21日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 6年 11月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士の他に言語聴覚士(ST)・作業療法士(OT)の専門職が配置されており、より適切なリハビリテーションを行うことが出来る。	個別支援計画書、専門的支援計画書に沿って、個々の障がいに応じた訓練目的と方法を考え、遊びやスポーツといった生活の中における作業や動作等を用いて、話す・聞く・食べるなどのリハビリテーション、日常生活動作の訓練を行っている。	それぞれの専門職が常に情報交換を行いながら、5領域すべてを含めた総合的な支援を提供していく。
2	充実した支援プログラムが構築出来ている。	児童発達支援と放課後等デイサービスの両方を行っている多機能事業所であるため、幼児から高校生までの幅広い年齢層の子ども達の利用がある。大きい子が小さい子のお世話をしたり、小さい子は大きい子の姿を見ながら一緒に活動する中で、出来ることも増えお互いに助け合える関りを持てるよう支援を行っている。	支援プログラムに沿って、季節毎の行事・活動への参加や事業所外での体験活動など、たくさんの活動に参加し経験を積み重ねることで、社会のルールやマナー・協調性を養えるような支援を引き続き行っていく。
3	社内・社外における職員研修が充実している。	年数回は社内の全事業所が集まり全体研修を実施している。それぞれの事業所や専門職が活動報告を行ったり、また外部講師を招いての勉強会を開催し、知識や技術の習得・研鑽に努めている。	研修・勉強会には今後も積極的に参加し、学んだ内容は事業所内で伝達、講習を行い情報共有を図っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が主要道路に面しており、車や自転車・歩行者等の往来が激しく送迎車の出し入れが難しい。 駐車スペースが狭く、数台しか駐車できないので来客者・保護者の訪問時に不便をかけてしまう。	街路樹や植え込みが生い茂っており、近隣の建物・フェンス等で左右の見通しが悪く、出車しようとする歩道を通る歩行者や自転車が急に飛び出て来ることもありぶつかりそうになり危険を感じたことがある。	街路樹や植え込み・縁石の整備、ミラーの設置等、危険要因を明らかにし、リスクの低減措置を図る。
2			
3			